

授業概要

科目名		臨床工学演習Ⅱ①				授業の種類	演習	講師名				
授業回数	30	回	時間数	60	時間	2	単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	3年	前期
【授業の目的・ねらい】 臨床実習に臨むにあたり、必要となってくる人体と病態や臨床工学をより深く理解する。												
【実務者経験】 臨床工学技士として、総合病院にて医療機器管理業務をはじめ、手術室業務、血液浄化業務、救急医療などに従事経験。												
【授業全体の内容の概要】 人体と病態・臨床工学をより深く理解し臨床現場で活かせる知識・技術を身につける事を目的とし、実習及び座学形式にて理解を深めていく。また、クラス内で逐次、お互いの知識・技術を共有していく事でさらに理解を深めていく。												
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 ・人体と病態・臨床工学をより深く関連付けれるようになる。 ・臨床実習に臨むにあたり、必要な知識や技術・態度を身につける。												
回数	講義内容										準備物(教材)	
1	ガイダンス、感染対策（清潔、不潔）を理解できる①											
2	感染対策（スタンダードプリコーション）を理解できる②											
3	呼吸療法の実際（酸素療法）を理解できる①											
4	呼吸療法の実際（医療ガス設備）を理解できる②											
5	輸液機器の使用方法を理解できる（輸液セット、三活、延長を清潔に組むことができる）①											
6	輸液機器の使用方法を理解できる（ポンプ類、加温器の適切な取扱ができる）②											
7	補助循環の実際を理解できる①ECMO											
8	補助循環の実際を理解できる②ECMO											
9	生体情報モニタを理解できる（HR/PR、NIBP、SpO2、RR、ETCO2の測定ができる）①											
10	生体情報モニタを理解できる（Aライン、SGカテーテルの準備、測定ができる）②											
11	呼吸療法の実際（人工呼吸の構成）を理解できる③											
12	呼吸療法の実際（人工呼吸の設定）を理解できる④											
13	体外循環の実際を理解できる①人工心肺装置											
14	体外循環の実際を理解できる②人工心肺装置											
15	呼吸療法の実際（人工呼吸のモニタリング）を理解できる⑤											
【使用教科書・教材・参考書】 臨床工学技士標準テキスト、臨床工学講座（各講義に対応したもの）												
【準備学習・時間外学習】 ・臨床実習に臨むにあたり、現在までの学びを総合的に復習しておくこと												
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として評価する。 中間試験60点、定期試験（OSCE試験）40点として、合計100点とする。 60点以上の者に科目を認定する。												

授業概要

科目名	臨床工学演習Ⅱ②					授業の種類	演習	講師名				
授業回数	30	回	時間数	60	時間	2	単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	3年	前期
【授業の目的・ねらい】 臨床実習に臨むにあたり、必要となってくる人体と病態や臨床工学をより深く理解する。												
【実務者経験】 臨床工学技士として、総合病院にて医療機器管理業務をはじめ、手術室業務、血液浄化業務、救急医療などに従事経験。												
【授業全体の内容の概要】 人体と病態・臨床工学をより深く理解し臨床現場で活かせる知識・技術を身につける事を目的とし、実習及び座学形式にて理解を深めていく。また、クラス内で逐次、お互いの知識・技術を共有していく事でさらに理解を深めていく。												
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 ・人体と病態・臨床工学をより深く関連付けれるようになる。 ・臨床実習に臨むにあたり、必要な知識や技術・態度を身につける。												
回数	講義内容										準備物(教材)	
16	呼吸療法の実際（人工呼吸器患者の搬送）を理解できる⑥											
17	シャント穿刺の手順を理解できる（穿刺トレーニング）											
18	血液浄化について理解できる（プライミング）①											
19	血液浄化について理解できる（脱血～返血）②											
20	血液浄化について理解できる（トラブル対応）③											
21	持続緩徐式血液濾過透析（CHDF）について理解できる											
22	持続緩徐式血液濾過（CRRT）について理解できる											
23	医療機器管理台帳の作成手順を理解できる①											
24	医療機器管理台帳の作成手順を理解できる②											
25	保守点検の手順と方法を理解できる①											
26	保守点検の手順と方法を理解できる②											
27	病院設備（滅菌装置、非常用発電機、井水処理システム）について理解できる											
28	医療機器安全管理体制、PL法、PMDAについて理解できる											
29	まとめ											
30	中間テスト											
	定期筆記試験											
【使用教科書・教材・参考書】 臨床工学技士標準テキスト、臨床工学講座（各講義に対応したもの）												
【準備学習・時間外学習】 ・臨床実習に臨むにあたり、現在までの学びを総合的に復習しておくこと												
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として評価する。 中間試験60点、定期試験（OSCE試験）40点として、合計100点とする。 60点以上の者に科目を認定する。												